

止まり木



令和7年（2025年）

5月12日発行

第7号

大阪市立野田中学校

人の不幸の上に立って得られる幸せはない



今日の全校集会での「いじめ・いのちについて考える日」のお話です。

2013年の5月に広島の中学3年生の女子が自ら命を絶ちました。後の調査でいじめが原因だと判明しました。それから各地でいじめについて考える日が制定されていき、大阪市では2017年から5月のGW明けの月曜日と制定されました。そして2年前からいのちについて考えるということで、今日5月12日が「いじめ・いのちについて考える日」とすることになります。

また、2019年には「大阪市いじめを考える中学生フォーラム」が行われ、その時にスローガンを決めることになり、「いじめSTOP、見逃し0(ゼロ)」が決議され、今もそのスローガンが続いている。

では改めていじめについて話したいと思います。今日はみんなに「今までにいじめをしたことがある人？」と聞きましたが、誰一人手を挙げる人はいませんでした。本当になればすばらしいことですが、大なり小なり経験のある人もいるかと思います。いじめは絶対にダメ。いじめる側が100%間違っているんだということをみんなも十分にわかっていると思うので胸を張って手を挙げられる人はいなかったと思います。だから今日は校長先生の自分の話、本当は隠しておきたい恥ずかしい話、知られたくない話をあえてしたいと思います。

今こそこうしてみんなにいじめは絶対にダメだと偉そうに話していますが、実は校長先生は小学校5年生の時にいじめをしていました。同じ学年の女の子です。自分に対して何か嫌なことをしたり、言ったわけではなく、ただ何となくみんなが嫌がっているからという理由で近づいてきたら逃げたり、体に触れるとそれを汚いもののように人につけたりしていました。さらにひどいときには下校中に前を歩いているとランドセルを蹴ったり、ランドセルを引っ張ってこかせたり、泣いているのを見て笑ったりと本当にひどいことをたくさんしていました。そんな時に「いじめ」のことがテレビなどで話題になり、死にたいと思うくらいつらい思いをしている人がたくさんいることを知りました。もし自分のしたことでのその女の子が死を選ぶことになったらと思うと怖くなり、もう絶対にいじめはやめようと決意しました。それからはケンカをすることはあっても一方的に一人の人のいじめる行為は一切していません。それは自信をもって言えます。でも、学校内外で「いじめ」というフレーズを聞くたびに約50年前の自分が女の子をいじめていたシーンが鮮明によみがえるのです。さらにその時は見えるはずがなかつたいじめをしているときの自分の醜い顔が見えるのです。そんな風に今も苦しんでいるのが現実です。もちろんいじめられていた人が一番苦しんでいたのは間違いないありません。みんなにはそんなどちらの思いもしてほしくありません。いじめる側が100%悪い。それは絶対に変わりません。そしていじめている人も苦しみを一生背負うことになることを忘れないでほしいと思います。みんなには相手のことを知り、相手のことを認めていける人にはなってほしいと願っています。本当なら知られたくない恥ずかしい話をしました。中にはいじめている側が優位な立場にいるように勘違いをしている人もいるかもしれません。でもどうか忘れないでおいてください。

『人の不幸の上に立って得られる幸せはない』ことを。

「いじめ問題撲滅宣言」

★「いじめ」が起こらない学校を作るために・・・

- ・一人一人が思いやりの心を持ちます。
- ・相手に傷つけられた時は「いや」とはっきり意思表示します。
- ・相手を傷つけたと思った時は、すぐに謝ります。
- ・その場にいない人の話は極力慎みます。
- ・自分を大切に、他人はもっと大切にして、互いの意見を尊重します。
- ・みんなにとって楽しい学校が作れるように努力します。

野田中学校生徒会

★もし、学校で「いじめ」が起こったら・・・

- ・「いじめている人」は、自分のしていることを自覚し、悔いあらためます。
- ・「いじめられている人」は、一人で絶対悩まずに、人に相談する勇気を持ちます。
- ・「近くの人」は、いじめを止めたり、注意できる人になります。
- ・「まわりの人」は茶化さずに解決の方向へ導きます。
- ・「いじめ」というのは、一人一人の心がけで必ずなくせます！！